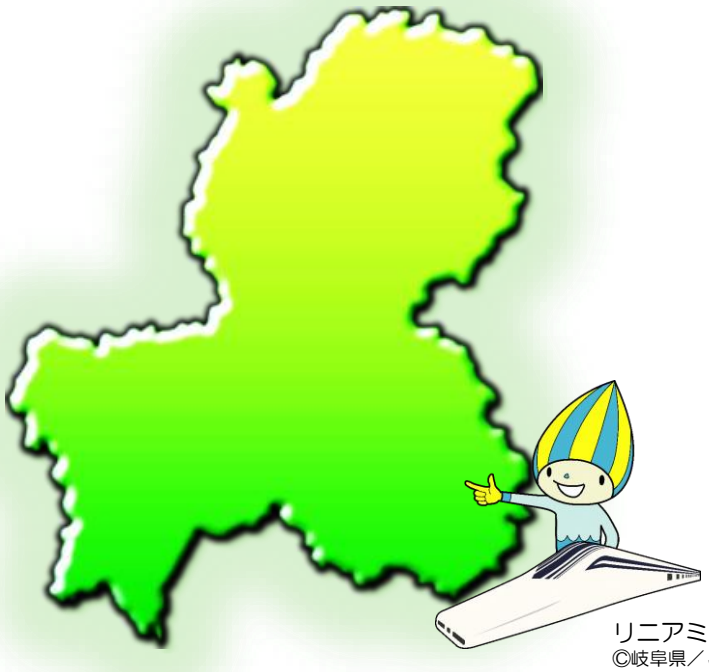
資料１

第３次
岐阜県リニア中央新幹線
活用戦略
（素案）



２０２７年３月

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会

<目次>

はじめに ・・・ 1

リニア中央新幹線の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

リニアをめぐる動き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

リニアの性能 ・・・ 2

リニア開業の効果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

リニア開業後の岐阜県の広域交通ネットワーク（イメージ） ・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅰ　戦略の基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ　戦略の具体的な方向性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

１　国内外から訪れたくなるまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

２　首都圏・関西圏の生活圏として、働き、住みたくなるまちづくり ・・・・・・・・・・ 14

３　まちの魅力を高める基盤整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

Ⅲ　今後の進め方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

推進体制 ・・・ 21

活用戦略の推進及び見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

参考

活用戦略の歩み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

リニアを活用した岐阜県のまちづくりのイメージ

（自然・アウトドア） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

（歴史・文化） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

（食） ・・ 25

（産業） ・・・ 26

（移住・二地域居住） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

リニア岐阜県駅周辺（中津川市・恵那市）のまちづくり（イメージ） ・・・・・・・ 28

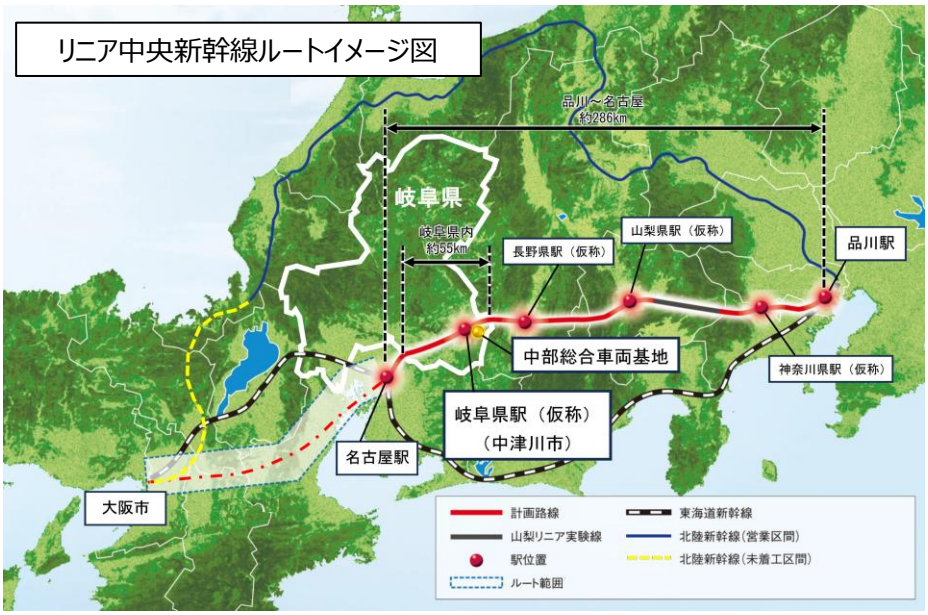
はじめに

＜リニア中央新幹線の概要＞

リニア中央新幹線は、東京（品川）から神奈川県、山梨県、静岡県、長野県、岐阜県、愛知県（名古屋）、三重県、奈良県を経由し、大阪府までの約４３８ｋｍを約１時間で結ぶ新たな新幹線です。

現在、東海旅客鉄道株式会社（ＪＲ東海）により品川－名古屋間の工事が進められており、岐阜県中津川市にはリニア岐阜県駅※に加え、同区間で唯一の整備工場が付帯する車両基地（中部総合車両基地）が設置されます。

リニアは、交通ネットワークはもちろん、国内外から人やモノが集まり、観光、経済圏の拡大、生活スタイルの変化など様々な分野の構造に大きな変革をもたらす国家的プロジェクトです。※「リニア岐阜県駅」及び他の中間駅名は仮称です。以下同じ。



（リニア中央新幹線建設促進期成同盟会ＨＰより岐阜県作成）

＜リニアをめぐる動き＞

２０２６年○月、ＪＲ東海からリニアの開業時期が○○年と発表されました。

一方で、県内では、瑞浪市大湫町内において、２０２４年２月にリニアトンネル工事が原因の地下水位低下が発生し、同年５月２０日以降、現在に至るまで工事が中断されています。また、同年８月には地盤沈下も確認されました。

県では、この問題への対応を最優先と考え、ＪＲ東海に対し丁寧かつ誠実な対応を求めています。

＜リニアの性能＞

磁石の力で浮いて走る「超電導リニア」は世界に誇る日本の技術です。この最先端技術により、時速５００km／ｈという速さで走行することができます。

Pref Gifu

リニア中央新幹線とは？

リニア中央新幹線は、超電導磁石の強力な磁力を使い、
浮上（約10cm）して、
最高時速500kmで走行する
最新鋭の鉄道です。



【提供：JR東海】

Pref Gifu

超電導とは？

☑ ある物質を極低温（−269℃）に冷やすと、電気抵抗がゼロになります。

☑ そこに電気を流すと、強力な電磁力が発生します。

この技術は、リニアや医療用のMRIなどに利用されています。

超電導の技術のおかげで、
車両を約10cmも浮かせて、
時速500kmも出せるんだ。
この技術は世界初だよ。

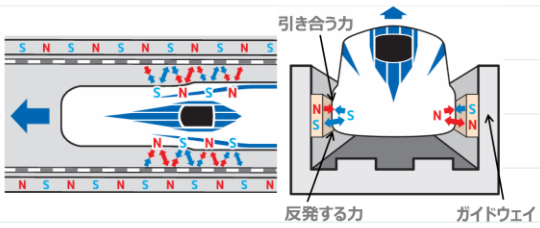


リーくん

Pref Gifu

リニアの浮上走行の仕組みは？

車両とガイドウェイ（側壁）の電磁石の「引き合う力」と「反発する力」を使って、前に進み、浮き上がります。



☑ 前に進む　☑ 浮き上がる

「引き合う力」と「反発する力」で、
車両が常に真ん中に戻るから、
壁にぶつからず、安全なんだ。



にあちゃん

Pref Gifu

飛行機と比べてリニアは早い？

リニア中央新幹線は、搭乗手続きがない分、東京ー大阪間を航空機より早く移動できます。

航空機（ボーイング787-8）	リニア中央新幹線
東京…✈…大阪	東京…🚄…大阪
95分	67分
所要時間６５分に加えて搭乗手続きに約３０分	搭乗手続きがないから移動がスムーズ！

（岐阜県の政策を紹介する「岐阜県政策概論（リニアを活用したまちづくり）」より抜粋）

＜リニア開業の効果＞

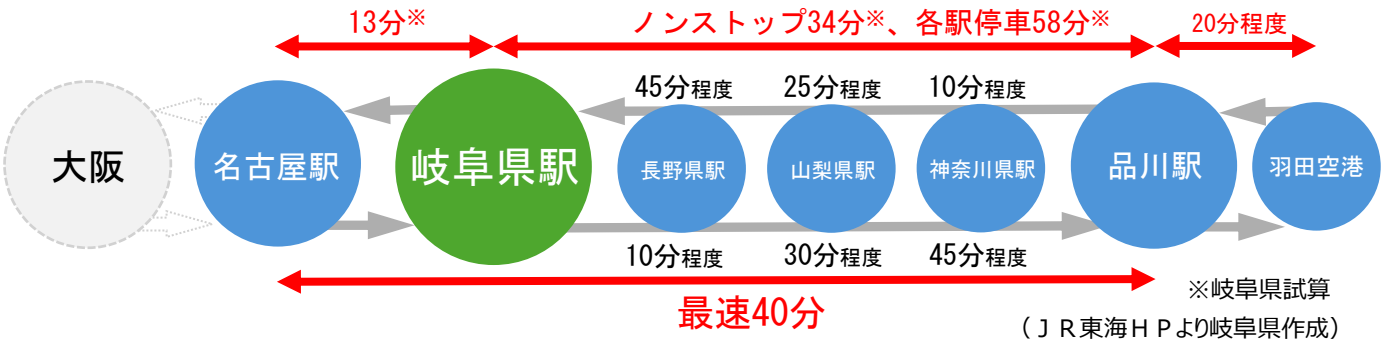
①リニア岐阜県駅と東京及び名古屋間の時間短縮効果

岐阜県の試算では、リニア岐阜県駅と品川駅の所要時間が、ノンストップで３４分※、各駅停車で５８分※となり、東京間のアクセスが大幅に向上し、人やモノの流れが大きく変化すると考えられます。 品川と羽田空港間は２０分程度であり、海外ルートの利便性も向上します。

また、リニア岐阜県駅と名古屋駅の所要時間も１３分※となり名古屋圏との往来がより便利になります。

リニアが開業すれば、岐阜県駅周辺は東京の通勤・通学圏となることも考えられます。

リニア岐阜県駅を起点とする所要時間



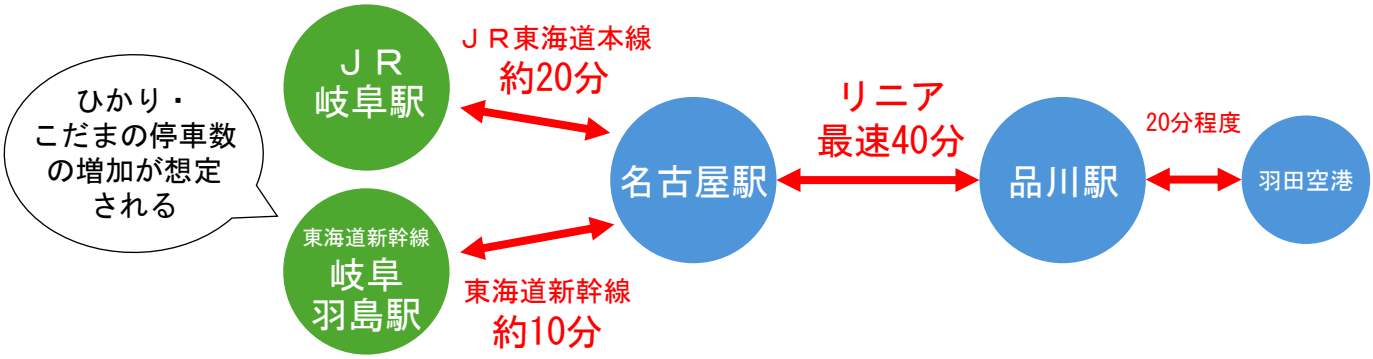
※岐阜県試算
（ＪＲ東海ＨＰより岐阜県作成）

②名古屋駅及び岐阜羽島駅の活用

リニア岐阜県駅のほか、岐阜県の近辺には、岐阜・西濃地域へのアクセスに優れた名古屋駅にもリニア駅が整備され、名古屋駅と品川駅が最速４０分で結ばれます。

また、リニア開業後、東海道新幹線は「のぞみ」中心のダイヤから「ひかり・こだま」中心のダイヤとなることが想定され、東海道新幹線の岐阜羽島駅により多くの新幹線が停車し、利便性の大幅な向上が見込まれます。

リニア岐阜県駅だけでなく、名古屋駅や岐阜羽島駅を活用することで、県内各地へのアクセスが飛躍的に向上し、リニア開業効果は全県に波及します。

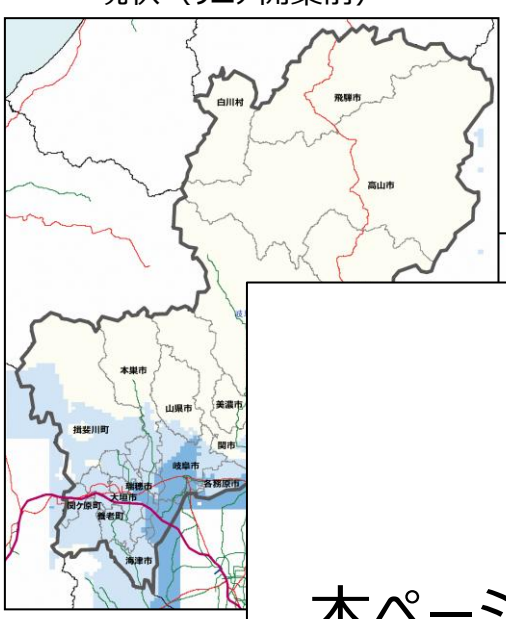


③リニア岐阜県駅及び名古屋駅を活用した場合の時間短縮効果

リニア岐阜県駅及び名古屋駅を活用した場合、県内全域で短縮効果が見られ、東京（品川）からの2時間圏の登場、3～4時間圏の大幅な拡大がみられます。

現状及びリニア開業後の東京からの等時間圏

現状（リニア開業前）



リニア開業後

P

本ページの文章・図は、現行の活用戦略のものです。

最新の情報（現在作成中）に更新したものを掲載する予定です。

※図の所要時間は、
国土交通省
「総合交通分析システム（NITAS:Ver.2.8）」を活用して岐阜県が算出。
・品川駅からの鉄道＋道路（自動車）の所要時間を図示
・対象ネットワーク：2021年3月時点のネットワーク

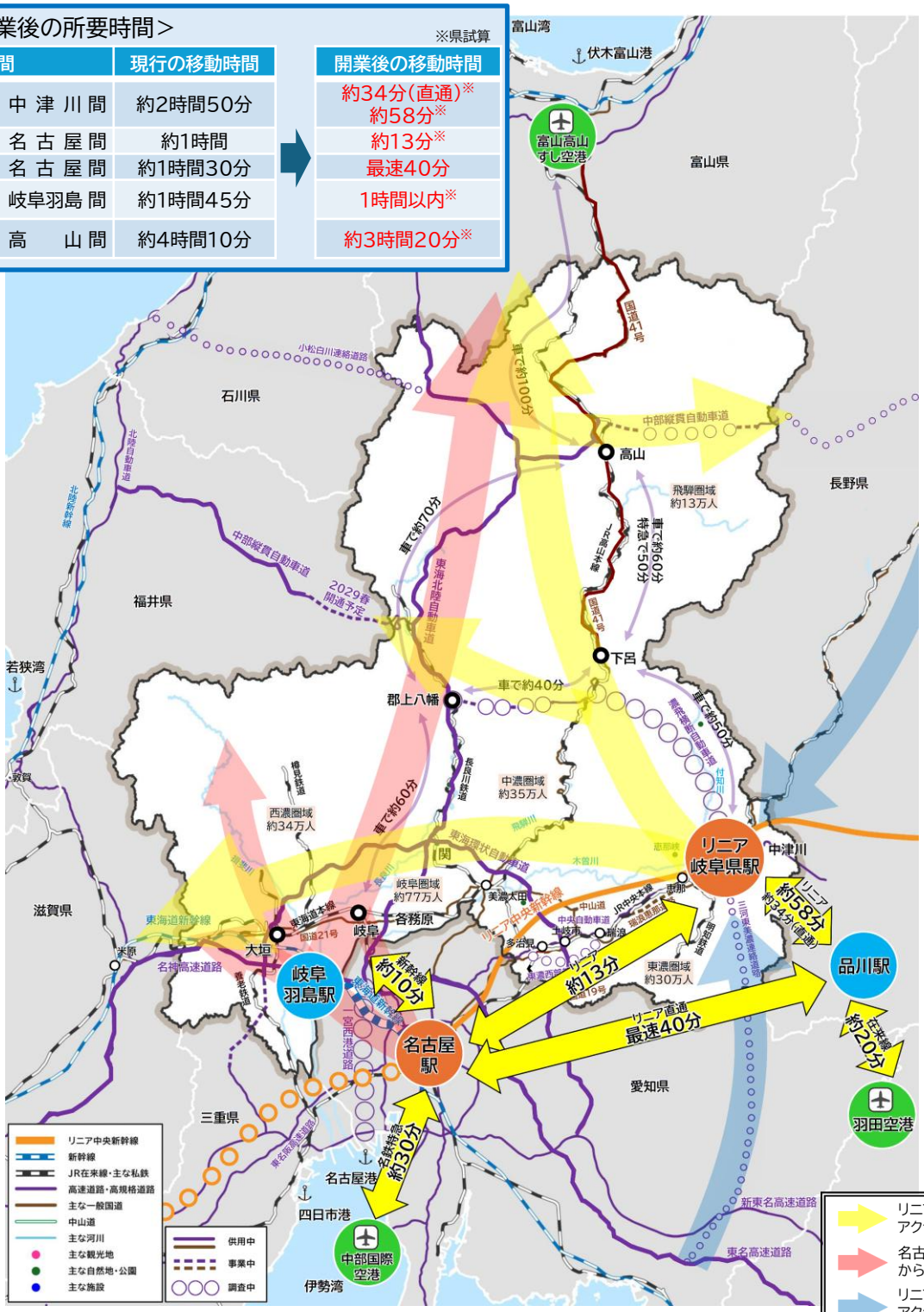
＜リニア開業後の岐阜県の広域交通ネットワーク（イメージ）＞

リニア開業後、リニア岐阜県駅を中心に、名古屋駅や岐阜羽島駅と連携して形成される広域交通ネットワークのイメージです。リニア中央新幹線や既存鉄道、高速道路などの交通基盤を活用することで、県内外とのアクセス向上が見込まれます。

＜リニア開業後の所要時間＞

※県試算

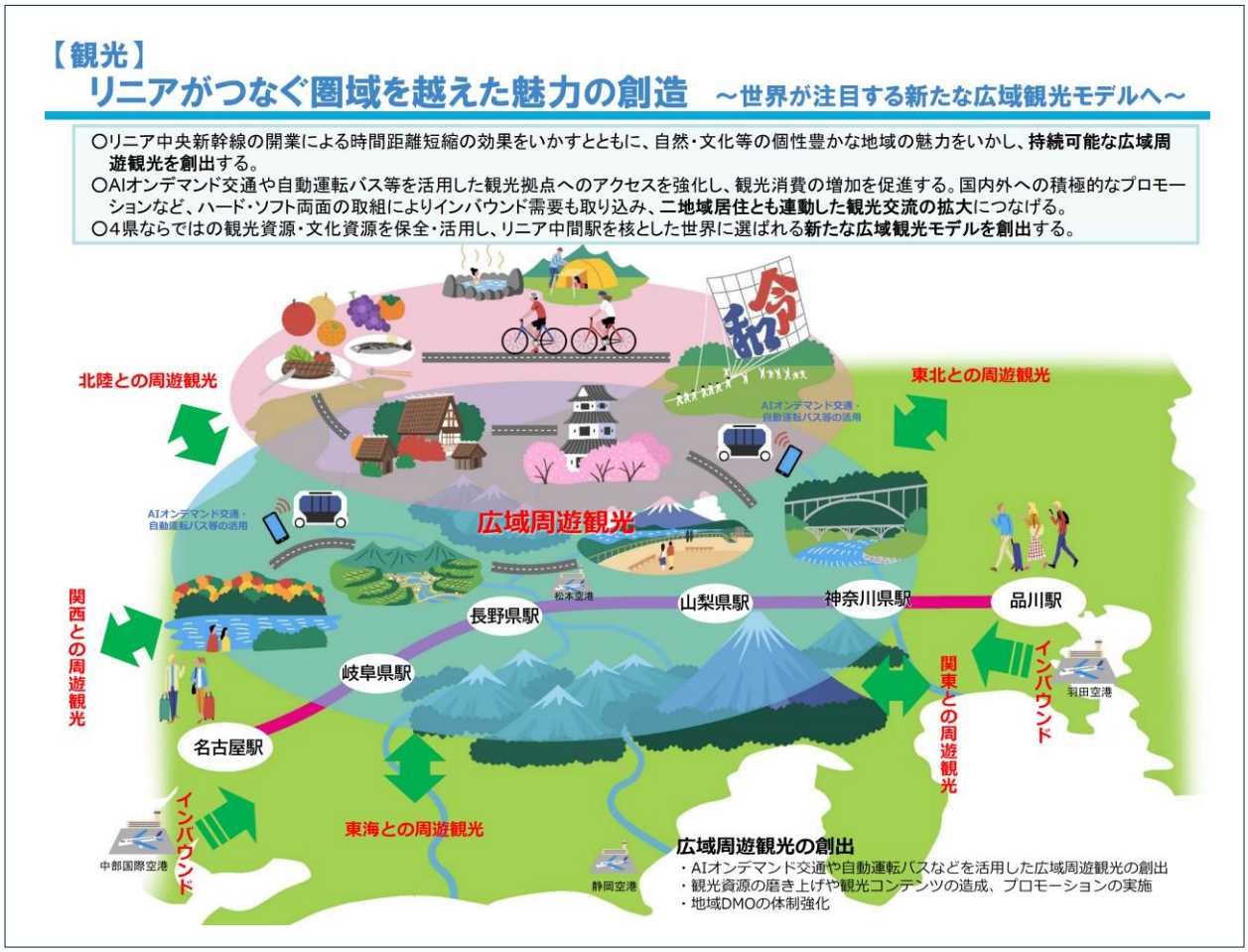
区間	現行の移動時間	開業後の移動時間
東京（品川）－中津川間	約2時間50分	約34分（直通）※ 約58分※
中津川－名古屋間	約1時間	約13分※
東京（品川）－名古屋間	約1時間30分	最速40分
東京（品川）－岐阜羽島間	約1時間45分	1時間以内※
東京（品川）－高山間	約4時間10分	約3時間20分※



Ⅰ　戦略の基本的な考え方

- リニアが開業する時代を担う若者を中心に、リニアを活用したまちづくりへの理解と関心を高め、県民とともにまちづくりを進めていきます。
- リニア開業の効果を県内全域に波及させるため、リニアを活用したまちづくりに資するあらゆる施策を積極的に推進していきます。
- 首都圏及び関西圏との移動時間が大幅に短縮されることを踏まえ、県内だけでなく、首都圏・関西圏に居住・活動する人々や企業の視点をより強く意識して、施策を推進していきます。
- リニア開業の効果を最大限に発揮するため、国やリニア中間駅設置県（神奈川県、山梨県、長野県）をはじめとする自治体間の連携を進めるとともに、特に岐阜県と隣接する長野県木曽地域や愛知県西三河地域などと広域的な連携を積極的に推進していきます。

リニア中間駅設置４県連携のイメージ



（出典：リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議中間取りまとめ（国土交通省））

Ⅱ　戦略の具体的な方向性

リニア開業の効果を県内へ最大限波及させるため、以下の**共通認識、３つの方向性（３本柱）**に基づき、リニアを活用したまちづくりを戦略的に進めていきます。

【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり

・若者を中心に、リニアを活用したまちづくりを考える機会を創出
・県民がまちづくりに参画・協働する取組を推進
・SNSや動画など各種媒体で、県民、そして首都圏をターゲットとした情報を発信

＜３つの方向性（３本柱）＞

1　国内外から訪れたくなるまちづくり

・地域ならではの魅力の磨き上げ
・国内外への積極的な情報発信
・交通ネットワークの確保・周遊性の向上

2　首都圏・関西圏の生活圏として、働き、住みたくなるまちづくり

・関係人口の創出
・移住・二地域居住の推進
・本社機能移転の促進
・研究機関、サテライトオフィス、教育機関等の誘致

3　まちの魅力を高める基盤整備

・機能的で利便性の高いリニア岐阜県駅及び駅周辺の整備
・広域道路ネットワークの整備
・自動運転を含む二次交通の充実

【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり

- リニア開業の効果を全県的に波及させていくためには、まずは**県民がリニアに関心を持ち**、そのうえで、**リニアが開業した将来のまちづくりをイメージ**することが重要です。
- そのため、**リニアが開業する時代を担う若者を中心に、リニアを活用したまちづくりを考える機会を創出し、県民がまちづくりに参画・協働する取組を推進**するとともに、リニア開業の効果や工事の進捗状況などについて、**SNSや動画など様々な媒体で、県民、そして首都圏等をターゲットとした情報発信**を行います。

【具体的な施策のイメージ】

❶ 県民とともにまちづくりを考える機会の創出

○リニア建設現場の見学会や出前講座、シンポジウムの開催、小・中学生向けの副読本の作成などを通じて、県民のリニアへの理解を深めるとともに、地域の魅力や将来のまちづくりについて県民と一緒に考える機会を創出し、特に若い世代のシビックプライドを高める取組を推進します。

写真

工事の現場見学会



リニアを活用したまちづくりを考えるシンポジウム

写真

県内大学への出前講座

❷ 県民とともに創り上げるまちづくり

○リニアへの理解を深め、リニアを活用したまちづくりについて考える機会を創出することで、県民が主体的に参画し、協働でまちづくりを推進する機運を醸成します。



「Local Research Lab 中津川」

❸ SNSなどを活用した情報発信の充実・強化

○SNS・各種イベントなど様々なツールを利用し、開業効果や建設工事の進捗状況の発信に加え、岐阜県の魅力もＰＲすることで、県民の関心を高め、首都圏等にアピールします。







SNSでの情報発信やPR動画の作成

1　国内外から訪れたくなるまちづくり

- 「国内外から訪れたくなるまち」とするためには、この地域が、東京から１時間弱で結ばれ、**トンネルを抜けると「別世界」の体験ができる特別な地域**として認識してもらうことが重要です。
- そのため、県内各地に点在する自然や食、歴史・文化など、地域ならではの**魅力をさらに磨き上げるとともに、周遊性を高め、国内外への積極的な情報発信を展開します。**

【具体的な施策のイメージ】

❶ 地域資源(自然や食、歴史・文化など)の掘り起こし・磨き上げ

○中津川市・恵那市の地域資源（中山道、恵那峡など）を重点的に磨き上げるとともに、リニア岐阜県駅や中部総合車両基地をはじめ、リニア中央新幹線そのものを新たな観光資源として活用するなど地域資源の掘り起こしを行うことにより、リニア岐阜県駅周辺地域のにぎわい創出と魅力向上を推進します。



品川－名古屋間で唯一の整備工場が併設される中部総合車両基地の工事現場（2026.6現在）
©Central Japan Railway Company. All rights reserved

○県内市町村や事業者等と連携し、「飛山濃水」と呼ばれる山々や清流、温泉などの地域に息づく自然資源、飛騨牛や鮎、栗きんとんなどの食、中山道や地芝居、戦国武将、祭りなどの歴史・文化、刃物や陶磁器などの地場産業、広域からの誘客が見込まれる音楽フェス等のイベントなど、岐阜県ならではの地域資源を磨き上げるとともに、一体的な情報発信を推進します。



世界文化遺産「白川郷」



恵那山



鮎の塩焼き



小坂の滝めぐり



岐阜のモーニング文化



関の刃物



野外音楽イベント「中津川 WILD WOOD」

○「東美濃歴史街道協議会※1」などによる、歴史・文化、地場産業等の地域資源を生かし、その魅力や価値の共通認識のもと関係者が一体となった取組を推進します。

❷ アウトドア資源や農林業体験などを楽しむ環境整備

○本県の多彩なアウトドア資源に加え、健康や癒しにつながる地域資源と連動させながら、通年楽しめるような広域周遊・体験型観光など、関係事業者等と連携した一体的なプロモーションを展開します。

○森林サービス産業に取り組む事業者が行う地域資源を生かした体験プログラムの磨き上げやトイレ等の受入環境整備、インバウンドの受入体制の強化を支援します。

○ぎふの農村ならではの体験メニューと地域貢献メニューを組み合わせた滞在型体験プログラム「GIFU-DO 農泊※2」の取組を推進します。

○県外を含む多様な人材の活用を図りながら、観光産業に携わる人材の育成・確保を推進します。



自然の中での宿泊体験



「GIFU-DO 農泊」（五平餅づくり）

※1：東美濃地域の歴史・文化、観光資源を活用した誘客促進や地域振興を目的とした協議会。岐阜県、多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市、可児市、御嵩町及び同市町の観光団体で構成。

※2：岐阜県の風土や暮らし、食文化を体験しながら、地域住民との交流や地域課題解決に資する活動を組み合わせた滞在型の農泊プログラム。

❸ 周遊促進、宿泊ニーズの創出

○岐阜県ならではの地域資源をストーリーでつなぎ合わせた周遊により、県内での滞在時間を延ばし、「もう１泊」を促進するとともに、観光消費の拡大や再訪につなげる取組を推進します。

○リニア岐阜県駅をはじめ、名古屋駅、岐阜羽島駅、中部国際空港などのゲートウェイからの誘客を見据え、観光客層や移動経路、周遊テーマを整理し、ターゲットに応じた観光誘客を推進します。

○リニア開業を契機として、戦国武将、武道、中山道、日本刀、陶磁器などの地域資源を活用し、インバウンド向けの誘客を推進します。

○本県の多彩なアウトドア資源に加え、健康や癒しにつながる地域資源と連動させながら、通年楽しめるような広域周遊・体験型観光など、関係事業者等と連携した一体的なプロモーションを展開します。【再掲】



天下分け目の地「関ケ原古戦場」



世界に誇る「関の刀鍛冶」

※関連施策

「３　まちの魅力を高める基盤整備」❷、❸及び❺「○リニア開業による環境の変化を見据えた、まちづくりと連携した自転車の活用を推進します。」を参照

2　首都圏・関西圏の生活圏として、働き、住みたくなるまちづくり

▶「働き、住みたくなるまち」とするためには、中津川市との**アクセス時間が大幅に短縮される名古屋**に加え、**生活圏・通勤圏にもなりうる首都圏・関西圏**の人々から見ても、**利便性が高く、安心して働き、生活できる環境を提供**することが重要です。

▶日本の中央に位置し、津波の心配がないという岐阜県が持つ地理的・地形的な優位性と、身近に親しむことができる自然環境などを強みに、**関係人口の創出、移住・二地域居住の取組、本社機能移転や先端産業などの研究機関、サテライトオフィス、教育機関の誘致などを推進します。**

【具体的な施策のイメージ】

❶ 関係人口の創出、移住・二地域居住の推進

○地理的・地形的な優位性や身近に親しむことができる自然環境など岐阜県ならではの地域資源を生かした関係人口の創出を図り、二地域居住、さらには移住へとつなげていく取組を推進します。

○首都圏・関西圏からの移住希望者等のニーズを踏まえた情報発信や相談対応、移住支援金をはじめとした移住支援の取組を推進します。

○気軽に農業を体験し、楽しみながらノウハウを学べるスタートアップの「場」を設け、「半農半X[※3]」など多様な主体・形の農業参画を図る「アグリパーク構想」を推進します。

○県と市町村が連携し、空き家所有者に対する空き家活用のための情報提供や啓発を推進します。



「アグリパーク構想」の推進

※3：農業をしながら、それ以外の自分のやりたい仕事や活動（X）を行うライフスタイル

○幼少期に自然を体験できる保育園の短期滞在プログラムを推進します。

○岐阜県内のリニア関連工事に携わった方々が、工事後も引き続き岐阜県と関わりを持っていただけるような取組を推進します。

○ぎふの農村ならではの体験メニューと地域貢献メニューを組み合わせた滞在型体験プログラム「GIFU-DO 農泊」の取組を推進　【再掲】



ぎふ空き家活用DIYワークショップ



保育園の短期滞在プログラム

❷ 先端産業・行政機能等の誘致

○リニア開業を見据え、「東濃クロスエリア本社機能移転推進会議※4」をはじめ、官民連携により、大容量で安定した通信インフラの整備等を通じて首都圏や関西圏からの本社機能移転、研究機関・データセンター、サテライトオフィス等の誘致を推進します。

○国において設置が検討されている防災庁の地方機関について、国に対し積極的に要望活動を行うなど、岐阜県への誘致に向けた取組を推進します。

○自然環境や文化的景観との調和を図りながら開発を推進します。



本社機能移転や研究機関の誘致
（中津川西部テクノパークの完成イメージ）

※4：東海環状自動車道と中央自動車道が交差する岐阜県南東部（多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市、可児市、御嵩町）のエリアを「東濃クロスエリア」と位置付け、リニア中央新幹線開業を見据えた本社機能移転誘致を推進するため、岐阜県、クロスエリアの市町、経済団体及び金融機関で構成する組織。

❸ 医療・介護体制の整備

○将来の医療需要を見据えた医療提供体制の構築、医師偏在対策の促進を図るとともに、介護現場の人材の確保・生産性の向上を推進します。

❹ 子育て支援体制の整備

○自然とのふれあいや、学年の枠にとらわれない学び合いなど岐阜県ならではの魅力的な教育環境の充実を図ります。

○保育所や放課後児童クラブの待機児童解消のための人材確保対策など、安心して子育てができる体制整備を推進します。

○小・中学生等への木育プログラムの実施や、森林環境教育プログラムを提供し「ぎふ木育※5」の取組を推進します。



学年を越えた子どもたちの学び合い



「ぎふ木育」の推進

❺ 地域を担う人材の育成・確保

○リニア開業により、リニア岐阜県駅周辺が首都圏や関西圏から見て通学圏に含まれることを見据え、大学などの教育機関の誘致を推進します。

○リニア開業に伴い、地域が必要とする産業人材の育成・確保を推進します。



産業人材の育成・確保

※5：岐阜県内の豊かな森林を守り次世代へつなげていくため、森や木に親しみ、学び、行動する人材を育成していく取組。

○幅広い人材ニーズに応える地域の人材育成を推進します。

○リニア建設現場の見学会や出前講座、シンポジウムの開催、小・中学生向けの副読本の作成などを通じて、県民のリニアへの理解を深めるとともに、地域の魅力や将来のまちづくりについて県民と一緒に考える機会を創出し、特に若い世代のシビックプライドを高める取組を推進します。【再掲】

○小・中学生等への木育プログラムの実施や、森林環境教育プログラムを提供し「ぎふ木育」の取組を推進します。【再掲】

❻ 地域を支える産業の育成・支援

○岐阜県の伝統・地場産業について、担い手不足などの課題を解決するための事業者等への支援を推進します。

○リニア岐阜県駅に隣接する中部総合車両基地の建設を契機として、新たな雇用の創出や地域の産業振興に向けた取組を推進します。

○東濃ヒノキをはじめ地域材の利用拡大等を通じて、地域の林業・木材産業の振興を図るため、県産材住宅の建設支援や森林技術者の確保・育成などの取組を推進します。

○リニア建設工事において、県内企業の受注機会の拡大、県産品の活用など建設段階の経済効果を県内に取り込む取組を推進します。



東濃地域の地場産業である美濃焼



森林技術者研修

3　まちの魅力を高める基盤整備

▶「１国内外から訪れたくなるまちづくり」、「２首都圏・関西圏の生活圏として、働き、住みたくなるまちづくり」を現実のものとするためには、**誰もが目的地まで円滑に移動**でき、**働く人・住む人も快適に生活**できるよう、**まちの社会基盤を整備**することが重要です。

▶そのため、この地域ならではの景観を生かしながら、機能的で利便性の高い**リニア岐阜県駅及び駅周辺の整備を進めるとともに**、県内各地とのアクセス性・周遊性の向上に向け、**広域道路ネットワークの整備や自動運転を含む二次交通の充実等を推進します。**

【具体的な施策のイメージ】

❶ リニア岐阜県駅及び駅周辺の整備

○リニアで訪れた人が「別世界」に来たと感動するような、この地域ならではの自然や歴史・文化を生かした景観形成を図るとともに、機能的で利便性の高いリニア岐阜県駅及び駅周辺の整備を推進します。

○県や地元自治体、ＪＲ東海が連携し、岐阜県の東の玄関口となるリニア岐阜県駅において、交通結節機能に加え、物販・情報提供機能の整備を推進します。



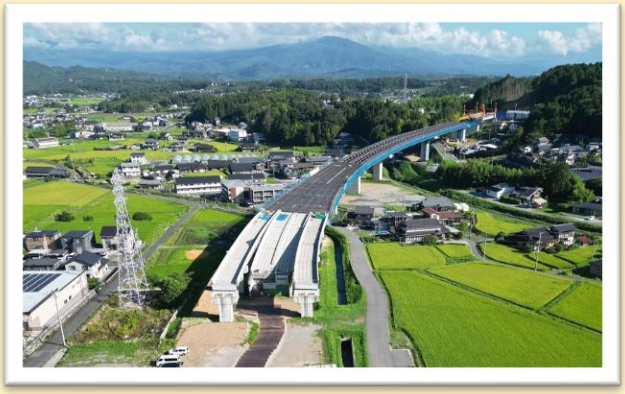
リニア岐阜県駅とかわまちづくり
（中津川市リニア岐阜県駅周辺エリアデザインブック（R4.3））



リニア岐阜県駅の工事現場（2026.9現在）

❷ リニア岐阜県駅のアクセス道路及び周遊を促進する道路網の整備

○　国道１９号瑞浪恵那道路や濃飛横断自動車道、東濃西部都市間連絡道路、東濃東部都市間連絡道路など、リニア岐阜県駅へのアクセスを向上させる道路及びリニア岐阜県駅のある東濃圏域から県内そして隣接県へと魅力ある拠点を結び、周遊を促進する道路網の整備を推進します。



「濃飛横断自動車道」の整備



「国道１９号瑞浪恵那道路」の整備

❸ リニア岐阜県駅等を起点とした公共交通ネットワークの充実

○リニア開業により生じる、リニア岐阜県駅、名古屋駅、岐阜羽島駅などを起点とした新たな人流や交通ニーズへの対応及び地域を支える公共交通の維持・確保のため、在来線鉄道（地方鉄道を含む）の機能強化・利用促進や広域バス路線の創出、自動運転等新技術の活用など、公共交通の効率化及び利便性の向上など計画的な整備を推進します。



自動運転バスの実証実験（恵那市）



地方鉄道（明知鉄道）

❹ 交通拠点の機能強化

○利用需要との調和を図りながら、リニア岐阜県駅へのアクセス向上のためのパーク・アンド・ライドに供する駐車場の整備を推進します。

○リニア開業効果を県内全域に波及させるためＪＲ美乃坂本駅やＪＲ瑞浪駅など在来線の駅周辺整備や交通拠点の機能強化などを推進します。



リニア開業を見据えた在来線駅周辺の再整備
（ＪＲ瑞浪駅周辺の整備（イメージ））

❺ 安全で安心なまちづくり

○新たな道路網の整備に伴う交通流の変化に応じた交通事故抑止対策や、人の流れや交通量の増加が見込まれる場所の防犯対策を推進します。

○高齢者、障がい者、多文化対応など、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを推進します。

○地震や豪雨などの災害に強い道路ネットワークを確保するため、緊急輸送道路等の道路ネットワークの強化を推進します。

○洪水氾濫や渇水の被害から人々の暮らしや企業の活動を守るため、新丸山ダムや木曽川水系連絡導水路などの整備を促進します。

○リニア開業による環境の変化を見据えた、まちづくりと連携した自転車の活用を推進します。



新丸山ダムの建設工事
提供：国土交通省新丸山ダム工事事務所

Ⅲ　今後の進め方

＜推進体制＞

本戦略の推進主体である活用戦略研究会を中心に、リニア開業の効果を最大限に県内全域へ波及できるよう、下記のとおり全県体制で取組を推進していきます。

活用戦略の推進主体

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会（2011.9設置）

構成員：知事、全市町村長、関係経済団体・観光団体の長　等

オブザーバー：中部地方整備局、中部運輸局、山梨県、長野県、愛知県、ＪＲ東海

県と市町村等とのリニア推進組織（主なもの）

- リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会
  （岐阜県、県内２２市町村）
- 岐阜県東濃５市未来のまちづくり協議会
  （構成員：多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、
  土岐市の市長及び市議会議長
  顧問：国会議員、岐阜県）
- 東美濃歴史街道協議会
  （岐阜県、多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、
  土岐市、可児市、御嵩町及び同市町の観光団体）
- 東濃クロスエリア本社機能移転推進会議
  （岐阜県、東濃クロスエリア（※）の行政機関、商工団体、
  金融機関　※多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那
  市、土岐市、可児市、御嵩町）

県庁内部の推進組織

- リニア中央新幹線対策本部
  （本部長：知事
  副本部長：副知事
  本部員：各部局長及び教育長）

国や他県との連携組織

- リニア中央新幹線建設促進期成同盟会
  （東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、奈良県、大阪府）
- リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議
  （リニア中間駅設置４県（神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県）、内閣府、総務省、経済産業省、
  国土交通省、ＪＲ東海）
- リニア中央新幹線東海三県一市連絡会議（愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市）
- 山梨・長野・岐阜３県リニアに関する共同研究会（山梨県、長野県、岐阜県）

＜活用戦略の推進及び見直し＞

活用戦略に基づく具体的な取組を把握し、リニアを活用したまちづくりを着実に推進していきます。

また、リニア中央新幹線の工事の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえ、活用戦略研究会の構成員をはじめとする関係者や有識者の意見を伺いながら、必要に応じて活用戦略の見直しを行います。

参考

＜活用戦略の歩み＞

岐阜県では、リニア開業を県全体の発展につなげるため、2009年7月に、県、関係市町村、経済界、観光関係者及び有識者で構成する「リニア中央新幹線地域づくり研究会」を設置し、2011年5月に「リニア基本戦略」を取りまとめました。

続いて、2011年9月には、同研究会の構成員を全市町村に拡大し、「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会」として再編しました。さらに、リニア中央新幹線工事実施計画の認可を目前に控えた2014年3月には、「（第１次）岐阜県リニア中央新幹線活用戦略」を策定し、開業効果を県全域に最大限波及させるための取組を進めてきました。

その後、コロナ禍を契機とした新次元の地方分散の進展など、社会情勢が大きく変化したことを踏まえ、2023年3月に第２次活用戦略として改定しました。さらに、静岡県とJR東海との対話が進展し、リニア開業に向けて大きな前進が見られたことから、研究会での議論や有識者からのご意見を踏まえ、2027年3月に第３次活用戦略として改定することとしました。

2009年7月
地域づくり研究会の設置
→
2011年5月
リニア基本戦略
の策定
→
2011年9月
活用戦略研究会の設置
→
2014年3月
（第１次）活用戦略
の策定
→
2023年3月
第２次活用戦略
の策定
→
2027年3月
第３次活用戦略
の策定



岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会



岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る
有識者懇談会

＜リニアを活用した岐阜県のまちづくりのイメージ（自然･アウトドア）＞

岐阜県の多彩なアウトドア資源に加え、健康や癒しにつながる地域資源と連動させながら、都会では味わえない魅力を発信していきます。



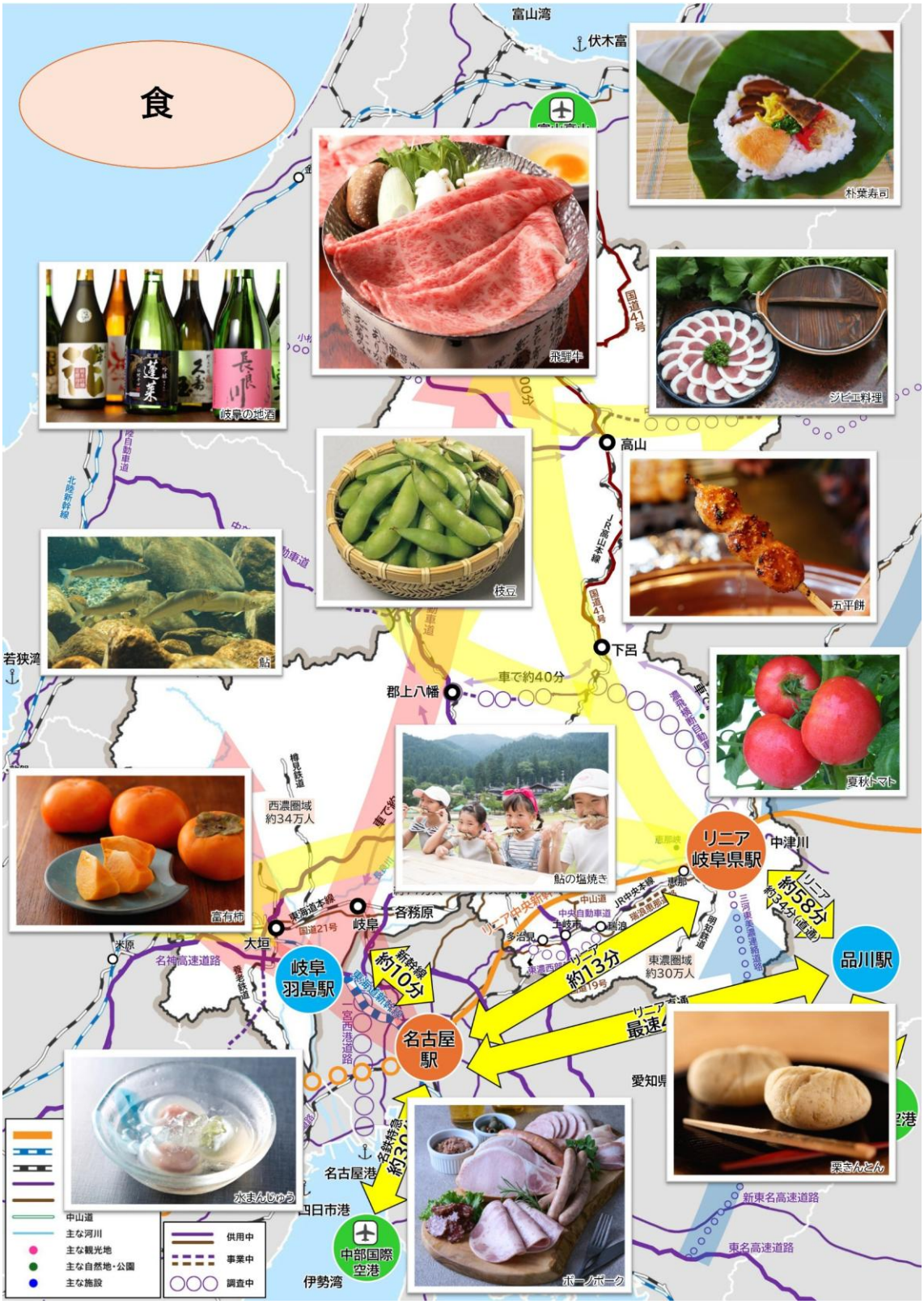
<リニアを活用した岐阜県のまちづくりのイメージ（歴史・文化）>

本県が誇る「歴史」や「文化」などの地域資源をストーリーでつなぎ合わせた周遊により消費拡大や再訪につなげる取組を推進します。



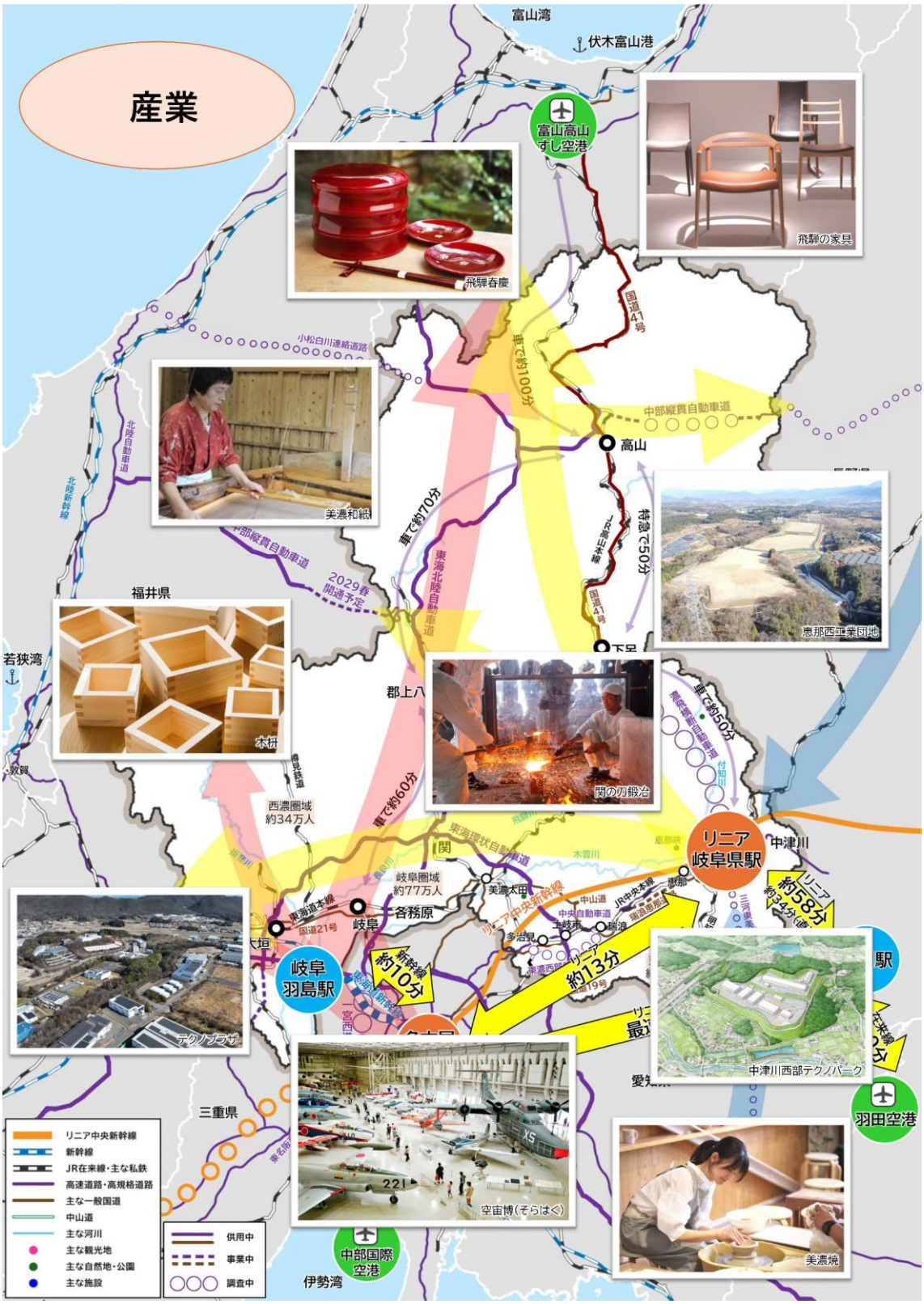
<リニアを活用した岐阜県のまちづくりのイメージ（食）>

飛騨牛や鮎、地酒など、地域に息づく自然と文化が育んだ岐阜県各地の多彩な食の魅力を発信していきます。



＜リニアを活用した岐阜県のまちづくりのイメージ（産業）＞

岐阜県の地理的・地形的な優位性や恵まれた自然環境などを強みに、本社機能移転や研究機関・データセンター等の誘致を推進するとともに、地場産業の活性化に取り組みます。



<リニアを活用した岐阜県のまちづくりのイメージ（移住・二地域居住）>

岐阜県が首都圏からの通学・通勤圏に含まれることを見据え、関係人口の創出、移住・二地域居住の取組を推進していきます。



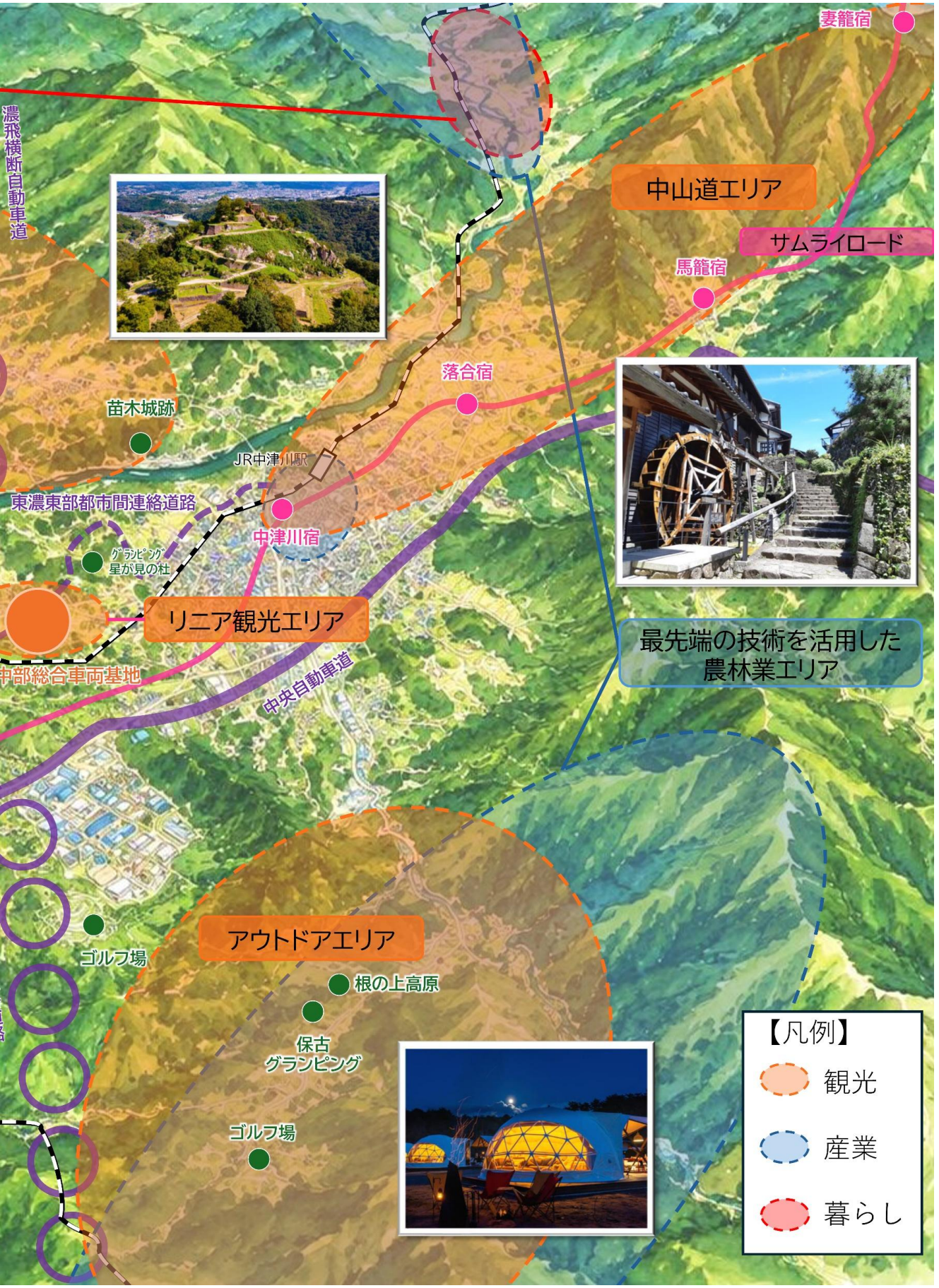
リニア岐阜県駅周辺（中津川市・恵那市）のまちづくり（イメージ）

リニア岐阜県駅周辺の中津川市、恵那市にまたがる地域を一体として捉えた、将来のまちづくりを示したイメージ図です。








妻籠宿
濃飛横断自動車道
中山道エリア
サムライロード
馬籠宿
落合宿
苗木城跡
JR中津川駅
東濃東部都市間連絡道路
中津川宿
グランピング
星が見の杜
リニア観光エリア
最先端の技術を活用した
農林業エリア
中部総合車両基地
中央自動車道
アウトドアエリア
ゴルフ場
根の上高原
保古
グランピング
ゴルフ場
【凡例】
観光
産業
暮らし